

在セネガル日本国大使館月報

2019年6月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 3日、英国BBCは、アリウ・サル預金・供託公庫総裁(サル大統領の実弟)が、2012年英国BP社によるセネガルの二つの鉱区における石油・ガス採掘契約の締結に当たり、金銭の供与を受けていた疑いがある旨報じた。これに対し、同日アリウ・サル総裁は、記者会見し報道内容を否定した。
- 24日、アリウ・サル預金・供託公庫総裁は、BBCによる汚職疑惑報道に関し、路上での抗議デモを受け、辞任を表明した。

(日本関連)

- 15日、新井駐セネガル日本大使は、日本で開かれるG20サミットの開催を前に、サル大統領を表敬した。日本は、アフリカにおけるセネガルのリーダーシップを踏まえ、サル大統領の同サミットへの参加に大いに期待している。
- 27日、サル大統領は、G20大阪サミットに際し、安倍総理と10分間の首脳会談を行った。両首脳は、同サミットにおいて、貿易、デジタル経済、環境等の世界の重要課題について、一致した力強いメッセージが出せるよう日本とセネガルが緊密に協力していくことで一致した。

(外政)

- 20日、コートジボワールを訪問中のサル大統領は、ウワタラ同国大統領との間で、住居、エネルギー、映画、文化及び商業の協力に係る5つの協定を締結した。

ガーボベルデ

- 2018年のカーボベルデへの旅行者は77,1万人を記録し、昨年比8,3%の増加となった。最も多い旅行者は英国人であり、全体の24,5%を占める。

ガンビア

- ガンビア政府は、不当利得に関する汚職疑惑の調査の結果、ジャメ元大統領及び共犯者のレバノン人のムハメド・バジ氏の財産を差し押さえた。

ギニアビサウ

- 18日、ヴァス大統領は、大統領令をもって、大統領選挙を11月24日に行う旨発表した。
- 22日、ゴメス現首相をギニアビサウの次期首相に任命する大統領令が発布された。

セネガル

(内政)

内政一般

- 3日、英国BBCは、アリウ・サル預金・供託公庫総裁(サル大統領の実弟)が、2012年英国BP社によるセネガルの二つの鉱区における石油・ガス採掘契約の締結に当たり、金銭の供与を受けていた疑いがある旨報じた。これに対し、同日アリウ・サル総裁は、記者会見し報道内容を否定した。(4日、Le Soleil 等各紙)

- 5日、サル大統領は、アリウ・サル預金・供託公庫総裁の金銭供与の疑いの報道について、記者会見に応じ、BBCの報道内容を否定し、必要な場合は関係者を処罰する旨、また、直ちに石油・ガス採掘の管理の強化に取り組む旨述べた。同日、ジョップ政府報道官も、記者会見を開き、セネガルが失ったとされる40年間で100億ドル規模の収入は、プロジェクトの規模からして現実離れた数字である旨述べた。(6日 Le Soleil等各紙)
- 3日、経済・社会・環境評議会(CESE)の議長にアミナタ・トゥーレ元首相が就任。アミナタ・タール前会長の後任。
- 6日、英国BP社は、セネガルの二つの鉱区における石油・ガス採掘権を得る際に、それを仲介したティミス・コーポレーション社に賄賂を支払ったとされる疑いを否定した。(7日 Le Soleil)
- 14日、野党及び市民社会は、天然資源管理において透明性を確保することを要求する大規模なデモを行った。本デモは、セネガル政府の許可なく行われ、約20名の市民が逮捕された。(15日 RFI)
- 17日、EUは、2019年大統領選挙の際のEU選挙監視団による最終報告書を発表した。同報告書の中で、地方選挙における支持署名の廃止が提案され、大統領選挙及び議会選挙の際の支持署名についても、規定、検証規準、検証方法等のモダリティを野党・市民社会も含め広く再協議するよう提案した。(18日 Le Soleil)
- 18日、EU選挙監視団が提出した大統領選挙に係る最終報告書において地方選挙における支持署名の廃止が提案されたことに関し、トゥーレ経済社会環境評議会議長は、「EUの選挙監視団のマンドートを超えている」旨述べ、また、ンジャイ内務大臣は、「支持署名の拡大は、セネガル国民を代表する国民議会により決定されたものであり、今後の修正についても国民議会の決定によりなされる。」旨述べ、EUが支持署名の廃止を提案したことに反論した。(19日 Le Soleil)
- 19日、サル大統領は、閣議において、統廃合による行政機関の合理化を進めることを指示した。(20日 Le Soleil)
- 21日、野党・市民系団体をとりまとめる「Aar Li Nu Bokk」は、天然資源管理において透明性を確保することを求めるデモを二週連続で行った。(22-23日 Le Soleil)
- 24日、アリウ・サル預金・供託公庫総裁は、BBCによる汚職疑惑報道に関し、路上での抗議デモを受け、辞任を表明した。同氏は、「一連の報道は政府を陥れようとするもので、真実に基づいておらず、非難される点はない」旨述べた。同氏は真実を明るみにするために司法調査に協力する意向。(24日 RFI)
- 25日、サル大統領は、イブラヒマ・ワドゥ・セネガル五輪委員会(Cnoss)副委員長を、2022年ユースオリンピック準備委員会のコーディネーターに任命した。(26日 Le Soleil)

治安関連・社会動静関連

- 19日、セネガルは、国際刑事警察機構(Interpol)と議定書を締結し、西アフリカ警察情報システムのメンバー国となった。(20日 Le Soleil)
- 26日、ダカール港において、ブラジルからダカールを経由してアンゴラに向かう予定の自動車のトランクから238キログラムのコカインが発見された。(27日 RFI)
- 30日、ダカール港において、ブラジルから到着した15台の自動車のトランクから798キログラムのコカインが発見された。(7月1日 Le Soleil)

(外政)

二国間関連

- 11日, シェイク・ウマル・アン高等教育・研究・イノベーション大臣は, フレデリック・ビダル仏高等教育大臣とともに, 「仏・セネガルキャンパス」を開講することを発表した。同キャンパスは, 教育, 研究, イノベーションの分野における協力の場となる。すでに, 来年入学予定の両国の学生たちに向けた15の研修が用意されている。(12日 Sud Quotidien)
- 12日, ダカールにおいて, セネガル及びEUの間の政策対話が始まった。同対話において, バ外務大臣は, セネガルにおいて現在実施中のEUが出資しているプロジェクトは6900万ユーロにのぼる旨説明した。(13日 L'Observateur)
- 13日, 大統領府は, サル大統領が, 20日から22日までコートジボワールを訪問することを発表した。(14日 Le Soleil)
- 13日, 「持続可能な町ダカール」という組織が発足した。本組織は, 2020年6月4-6日にボルドーで開催される「持続可能な町」をテーマにした仏・アフリカサミットに向けた取組の一つ。(14日 Sud Quotidien)
- 17日, サル大統領は第13回「ヨーロッパ開発の日」の開会式に出席するためブリュッセルを訪問した。訪問中, 同大統領は, チャールズ・ミッシェル・ベルギー首相やジャン・クロード・ユンケル欧州委員会委員長ほかと面会した。(18日 Le Soleil)
- 20日, コートジボワールを訪問中のサル大統領は, ウワタラ同国大統領との間で, 住居, エネルギー, 映画, 文化及び商業の協力に係る5つの協定を締結した。また, ダカール=アビジャン=ラゴスを結ぶ高速道路の建設についても話し合われた。(21日 Le Soleil)
- 23-30日付けジュヌ・アフリック誌は, アフリカ・マダガスカル航空安全局(ACESNA, 本部ダカール)において, 6年間にわたり, 多量の資金が横領されている疑いがあるとの同機関の内部監査報告について報道した。(23-30日 ジュヌ・アフリック)
- 2021年にダカールにおいて開催される水フォーラムでは, 水の安全, 協力, 持続可能な発展及び融資の4つが主要テーマとなる。(25日 Le Soleil)
- 25日, ロイック・フォション世界水評議会委員長は, インタビューに応じ, 水フォーラムの成功のためには, 従来 of 会合に加えコンサートや展示も行い, 同フォーラムに誰もが参加できるようにすることが重要である旨述べた。(26日 Le Quotidien)
- 27日, アハメド・モーリタニア外相は, セネガル, ガンビア及びマリ of 駐モーリタニア大使を招集し, これらの国が, モーリタニアにおける大統領選挙後の大衆の反乱を誘発しているとして非難した。(27日 Walf Quotidien)

国際情勢・国連機関支援等

- 特になし。

日本関連

- 8-9日につくばで開催されたG20貿易・デジタル経済大臣会合において, セネガルの代表団は, 「セネガル新興計画(PSE)」及び「デジタル化セネガル2016-2025」に基づいて貿易及びデジタル経済を発展させていく旨説明した。(15-16日 Le Soleil)
- 15日, 新井駐セネガル日本大使は, 日本で開かれるG20サミットの開催を前に, サル大統領を表敬

した。日本は、アフリカにおけるセネガルのリーダーシップを踏まえ、サル大統領の同サミットへの参加に大いに期待している。(17日 Le Soleil)

- 17日、サンレイ州ダガナ県ディゲンベレ村にて、平成28年度対セネガル無償資金協力「経済社会開発計画」に係る浄水装置の引渡式が開催された。本式典には、新井駐セネガル大使及びチャム水・衛生大臣が出席した。(19日 Le Soleil)
- 25日、サル大統領は、G20 大阪サミットに出席するため、日本に向け出発した。G20 サミットに際し、日本、中国、エジプト、南アフリカなどの首脳と会談を行う予定。(25日 Le Soleil)
- 27日、「日セネガル間の関係と協力は、成熟の域に達している。」と題した新井駐セネガル日本大使の G20 サミット及び日セネガル関係に関するインタビューがルソレイユ紙に掲載された。(27日 Le Soleil)
- 27日、サル大統領は、G20 大阪サミットに際し、安倍総理と10分間の首脳会談を行った。両首脳は、同サミットにおいて、貿易、デジタル経済、環境等の世界の重要課題について、一致した力強いメッセージが出来るよう日本とセネガルが緊密に協力していくことで一致した。(28日 Le Soleil)
- 28日、サル大統領は、アフリカ開発のための新パートナーシップ(NEPAD)を代表して G20大阪サミットに参加した(ホトゥ経済・計画・協力大臣及びサル保健・社会活動大臣同行)。サミットに際し、サル大統領は、安倍総理大臣、習近平中国国家主席、ラマポーザ・南アフリカ大統領、サルマン・サウジアラビア皇太子、メルケル・ドイツ首相、マクロン・フランス大統領、ラガルドIMF専務理事、グテーレス国連事務総長等の各国首脳と会談した。(29日 Le Soleil)

(経済)

経済一般

- 24日、サル大統領は、アフリカ大陸自由貿易協定(AfCFTA)に関する地域フォーラムにおいて、5月30日に発効したAfCFTAは、AUアジェンダ2063の目標の達成に向けた重要な進歩となる旨述べた。(25日 Le Soleil)
- 28日、ラガルドIMF専務理事及びマルパス世銀総裁は、G20 サミットの際、サル大統領と会談し、セネガルの公共財政部門における取組、税制・関税制度改革及びダカールーバマコ間の鉄道投資を高く評価した。(7月1日 Le Soleil)

インフラ関連

- 3日、国民議会は、地域高速鉄道(TER)のインフラを管理するTER資産管理公社(SEN—TER)の設置法を採択。同公社は、TER開発公社(SE—TER)とともにTERの管理運営に当たることになる。(4日 Le Soleil 等各紙)
- 14日、市場規制当局(ARMP)は、セネガル水公社(SDE)による水道事業請負の契約において汚職があったとする訴えを退けた。これにより、最高裁への上告がなければスエズ(仏)は、入札結果どおり事業を行うことになる。(17日 Sud Quotidien)

カーボベルデ

- 2018年のカーボベルデへの旅行者は77, 1万人を記録し、昨年比8, 3%の増加となった。最も多い旅行者は英国人であり、全体の24, 5%を占める。(5日 infopress)

ガンビア

- 11日, 米国は, ガンビア政府がジャメ元大統領の不当利得に関する汚職疑惑の調査を始めたことを評価する旨発表した。(13日 Pana)
- ガンビア政府は, 不当利得に関する汚職疑惑の調査の結果, ジャメ元大統領及び共犯者のレバノン人のムハメド・バジ氏の財産を差し押さえた。(15-16日 Sud Quotidien)
- 26日, ヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)及び TRIAL International は, ヤヤ・ジャメ元大統領が3名の女性から性的暴行の容疑で訴えられていることを発表した。(27日 Le Soleil)

ギニアビサウ

- 17日, ヴァス大統領は, ペレイラPAIGC党首(国民議会第一党)に対し, 党の中から首相を指名することを求める書簡を発出した。(17日 Facebook)
- 18日, PAIGCは, ペレイラ同党党首を首相に指名する旨の書簡をヴァス大統領宛に発出した。(18日 Facebook)
- 18日, ヴァス大統領は, 大統領令をもって, 大統領選挙を11月24日に行う旨発表した。(18日 Facebook)
- 19日, ヴァス大統領は, ペレイラ党首を首相とする議会の指名を退け, PAIGCに別の党員を首相として指名するよう指示した(19日 Lusa)。
- 22日, ゴメス現首相をギニアビサウの次期首相に任命する大統領令が発布された。(21日 Facebook)
- 26日, ペレイラ PAIGC 党首及びその支持者は, ヴァス大統領がサル・セネガル大統領の支援を得てクーデターを起こそうとしているとして両者を非難した。変革のための連合党(UM)のレガラ党首は, 「サル大統領には, ギニアビサウにおける問題の一部になるのではなく, 問題を解決する手助けをしてもらいたい」旨訴えた。(27日 RFI)
- 27日, 国民議会は, ヴァス大統領の任期が満了したことを受け, カサマ国民議会議長を暫定大統領に任命する旨の決議を採択した。任期満了後の大統領の権限に関しては, 憲法解釈をめぐって意見の対立がある。(28日 Le Soleil)

(注) 本月報は, セネガル, カーボベルデ, ガンビア, ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は, 日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが, 当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)